

修士論文（要旨）

2022年1月

高齢者が社会と関連する余暇活動を行う動機
－農村地域を対象にして－

指導 長田 久雄 教授

老年学研究科

老年学専攻

220J6001

雄川 直美

Master's Thesis (Abstract)
January 2022

The motivation of the elderly to engage in socially meaningful leisure activities:
Targeting in rural areas

Naomi Ogawa

220J6001

Master's Program in Gerontology

Graduate School of Gerontology

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Hisao Osada

目次

第1章：はじめに 研究背景

1.1 高齢者の社会と関連する余暇活動の実態.....	1
1.2 高齢者の社会と関連する余暇活動の先行研究と重要性.....	1
1.3 本研究の目的.....	4
1.4 用語の操作的定義.....	4

第2章 方法

2.1 対象.....	5
2.2 対象地域の概要.....	6
2.3 調査方法.....	6
2.4 分析方法.....	7
2.5 倫理的配慮.....	7

第3章 結果

3.1 インタビューの分類.....	7
3.2 インタビュー調査結果.....	7

第4章 考察..... 11

第5章 本研究の限界..... 14

謝辞..... 14

文献

資料

第1章 はじめに 研究背景

高齢者の社会参加や余暇時間の調査では、半分以上の高齢者が何らかの社会活動や余暇時間を過ごしている事がわかる。しかし一方で、70歳以上になると社会活動を行っていない人が半分以上の割合になっている。70歳以上になれば健康上の理由が増加すると考えられるが、時間的・精神的ゆとりがない事や人間関係の煩わしさ、やりたい活動が見つからないという理由もある。余暇活動や社会参加の先行研究からは社会と関連する余暇活動には、健康によい影響を与え、認知機能を維持する効果がある事、地域差がある事や阻害要因、促進要因、活動の意味づけについては研究されている。農村地域では公共交通の利便性が低い事や趣味や余暇活動に関する資源や余暇時間の少なさ、勤労が美德とされている等の課題があると推察されている。本研究では、農村地域において社会と関連する余暇活動を推進するにはどのような方策が必要なのか、余暇活動を始める、やめる動機にどのような事が影響を与えているのか、影響を与えている背景には何があるのか調査が必要であると考えた。なお、先行研究に社会参加や地域社会活動も含めたのは、本研究は余暇活動でも社会に関連する事に焦点をあてているためである。

このような背景から、本研究の目的は、高齢者が社会と関連する余暇活動を、始める、やめる、継続している時の動機に焦点をあて、この動機に影響を及ぼしている背景を質的調査に基づいて事例から明らかにする事とする。

1.1 用語の操作的定義

① 社会と関連する余暇活動について

本研究では、就労等の報酬や賃金が発生する活動や定期的に行う家事以外で、自主的に自由な時間に行う活動を、社会と関連する余暇活動と定義する。社会と関連する余暇活動は、退職前後に始めた、やめた活動、中年期から始めて継続している活動も含める。

② 農村地域について

今回の農村地域は、豊富な水と土地の利用の割合の多くが農業で占められており、地縁的な結びつきという農村コミュニティの特徴を持つ地域を農村地域と定義した。

第2章 方法

2.1 対象

T県N市在住で概ね70歳以上の高齢者を対象とした。対象高齢者の抽出は、研究担当者のネットワークを通じた機縁法により、認知症が無く、インタビュー可能な在宅高齢者を12名選定し、調査協力を得た。対象者の年齢は、68歳～80歳、性別は全て女性、現在の仕事は、無職が5名、パートが5名、シルバー人材センター登録が1名、家で出来る仕事をしているが1名であった。現役時代は、保健師、ケアマネジャー、ヘルパーをしていた。(表1 対象者の属性)

2.2 調査方法

調査方法は、半構造化インタビューで行った。現在コロナ禍により対面に不安を抱く高齢者のために電話インタビューも可能とした。事前に対象高齢者からはインタビュー方

法の希望と場所を聞き、話しやすい状況を作り、インタビューを行った。調査期間は、2021年11月6日から8日で、時間は約40分程度、いずれも調査対象者の了承を得て、ICレコーダーに録音した。

インタビュー開始前に、インタビュー対象者の基本属性（年齢、性別、同居家族、現在の就業状況）を聞き取りした後、次の9つについてインタビューを行った。

- ①余暇活動は、どのような活動を思い浮かべますか。
- ②お話しもらった活動の中で、今あなたが行っている活動はありますか。
- ③その活動を始めたきっかけや動機は何ですか。
- ④そのきっかけや動機に至るまでの経緯を教えてください。
- ⑤他にも行っている活動はありますか。（ある場合は、③、④も聞く。）
（対人交流がある余暇活動、一人で行う余暇活動の両方を聞く。）
- ⑥やめてしまった活動はありますか。
- ⑦その活動を止めるきっかけや動機はなんですか。
- ⑧やめるきっかけや動機に至るまでの経緯を教えてください。

⑨余暇活動をしている時としていない時にあなた自身に何か気持ちの変化はありますか。

2.3 分析方法

インタビューの録音から逐語録を作成し、インタビュー内容を熟読。この内容から始めたきっかけや動機、やめたきっかけや動機、その動機に至るまでの経緯や背景の記述部分を抜粋した。始めたきっかけや動機、止めたきっかけや動機は類似する内容をカテゴリー化し、経緯や背景については、個別に内容を分析した。

2.4 倫理的配慮

本研究は、2021年7月に桜美林大学研究倫理委員会に研究倫理審査申請書を提出し、9月24日に承認を受けた。（承認番号21023）インタビュー調査実施前に、対象者には郵送にて調査の主旨と協力依頼を記載した文書、調査協力同意書及び希望調査方法、希望期日回答書、返信用封筒を同封し送付後、電話にて調査の主旨について説明を行い、調査当日も、再度、研究の目的、方法、データの公表を説明し、調査に協力したくない場合はいつでも拒否できる事等を再度説明し同意を得た。また、ICレコーダーによる録音についても了解を得て実施した。

第3章 結果

3.1 インタビュー内容の分類

インタビューの逐語録から《始めたきっかけや動機》、《やめたきっかけや動機》、《その動機に至るまでの経緯や継続している背景》の記述部分の語りを抜粋し、内容を要約し分類した。

3.2 インタビュー調査結果

現在行っている余暇活動の回答は、読書が6人、ウォーキング、ストレッチや体操、

畑、園芸が4人と多く、他にはピラティス、ペタンク、フラダンス、フレッシュテニス、硬式テニス、グランドゴルフ、水泳、ボランティア、旅行、民謡、俳句、カラオケ、キーボード、オカリナ、ピアノ、観劇、書道、絵画、ハンギングバスケット、小物づくりがあった。畑や園芸については、余暇活動であるという方と家事であるという方がいた。

《始めたきっかけや動機》を抽出、分類すると、【誘われたから】、【運動、健康のため】、【好きだから、興味があるから】、【何らかの刺激から】【仲間と一緒に】の5つの項目となった。《やめたきっかけ、動機》を抽出、分類すると、【身体的理由】、【家族に関する理由】、【心理的負担感】、【仕事上の理由】、【コロナで活動が出来なくなったから】の5つの項目となった。《その動機に至るまでの経緯や継続している背景》を抽出、分類すると【自分にとって楽しく居心地がよい事】、【若い頃に1度その活動を行っていた事】、【集中できる時間でストレス解消になる事】、【余暇活動での人との関わり】、【講師の指導が自分に向いている事】、【練習しなくてもよい事】【家族との関係】【今までの仕事との関係】の8つの項目となった。今回のインタビューで《余暇活動に参加しない背景》もいくつか語られた。

第4章 考察

《始めたきっかけや動機》、《やめたきっかけや動機》、《その動機に至るまでの経緯や継続している背景》について先行研究と比較しながら考察した。今回の研究で、社会と関連する余暇活動を推進するには、次の三点が重要となりえる事が示唆された。一つ目は、活動を始める重要なきっかけとなる、誘い、誘われるような仲間作りや近所づきあいが必要な事、二つ目は家事や孫の世話と自分のやりたい活動を両立させる活動の場があればよい事、三つ目は地域での集まりに参加を困難にしている阻害要因を何かしらの方策で参加が可能な状態にしたほうが良い事である。

第5章 本研究の限界

今回の対象者は、全員が介護・福祉関係の仕事をしており、認知症にならないためには、余暇活動が重要であるという考え方を持っているため、筆者は今回の結果に影響していると考えた。

本研究の限界は、今回の研究は12名を基にした事例研究である事、また退職前の仕事が介護、福祉関係の仕事に従事した女性であり偏りがある事から、これらの知見を一般化することは出来ない。筆者は、農村地域で女性、男性の役割の影響があるのかも踏まえ、今後農村地域の社会と関連する余暇活動の推進に貢献出来るような知見を生み出す研究を行う必要があると考えている。

文献

- 1) 内閣府：「高齢社会対策基本法（平成 7 年法律 129 号）」（1995）
（https://www8.cao.go.jp/kourei/measure/a_4.html, 2021.5.29 アクセス）
- 2) 内閣府：「高齢者社会対策大綱（平成 30 年 2 月 16 日閣議決定）」（2018）
（<https://www8.cao.go.jp/kourei/measure/taikou/h29/hon-index.html>, 2021.5.29
アクセス）
- 3) 内閣府：「令和 3 年版高齢社会白書」（2020）
（https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2021/zenbun/03pdf_index.html ,
2022.6.17 アクセス）
- 4) 総務省統計局：「平成 28 年社会生活基本調査」（2016）
（<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/gaiyou.html>, 2021.5.29 アクセス）
（<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/kekka.html>, 2021.5.29 アクセス）
- 5) 内閣府：「平成 30 年版高齢社会白書」（2018）
（https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/html/zenbun/s1_2_3.html,
2021.5.29 アクセス）
- 6) Paganini-Hill, A., Kawas, C. H., & Corrada, M. M. : Activities and mortality in the elderly: the leisure world cohort study. *Journals of Gerontology Series A: Biomedical Sciences and Medical Sciences*, 66(5) : 559-567 (2011).
- 7) 辻大士, 長嶺由衣子, 宮國康弘, 近藤克則 : 高齢者の趣味の種類および数と認知症発症: JAGES 6 年縦断研究. *日本公衆衛生雑誌*, 67(11) : 800-810 (2020).
- 8) 小園麻里菜, 権藤恭之, 小川まどか, 石岡良子, 増井幸恵, 中川威, 高橋龍太郎 : 余暇活動と認知機能との関連. *老年社会科学*, 38(1) : 32-44 (2016)
- 9) Eriksson Sörman, D., Sundström, A., Rönnlund, M., Adolfsson, R. & Nilsson, L. G. : Leisure activity in old age and risk of dementia: a 15-year prospective study. *Journals of Gerontology Series B: Psychological Sciences and Social Sciences*, 69(4) : 493-501 (2014)
- 10) 齋藤雪彦 : 都市近郊農村地域における余暇生活とその個人化, 孤立に関する基礎的研究 地域社会における生活の個人化と社会的孤立に関する研究 その 1. *日本建築学会計画系論文集*, 77(673), 543-552.(2012).
- 11) 齋藤雪彦 : 首都圏小都市の近郊農村地域および中心市街地における余暇および交流活動に関する研究. *日本建築学会計画系論文集*, 78(683), 73-80. (2013).
- 12) 河原晶子 : 高齢者の余暇活動を誘引する社会的ネットワーク—鹿児島県国分市の高齢者大学を事例として—. *研究紀要. 志學館大学文学部= Research bulletin of the Faculty of Humanities, Shigakukan University*, 21(2), 103-123 . (2000).
- 13) 岡本直美, 水上喜美子 : 高齢者の余暇活動への参加と継続に関する検討 (1). In *日本心理学会大会発表論文集 日本心理学会第 78 回大会* (pp. 2AM-2). 公益社団法人 日本心理学会 . (2014).
- 14) 水上喜美子, 岡本直美 : 高齢者の余暇活動への参加と継続に関する検討 (2). In *日本心理学会大会発表論文集 日本心理学会第 78 回大会* (pp. 2AM-2). 公益社団法人 日本心理学会. (2014).

- 15) 宍戸邦章：高齢期における「共」活動の意味「遊」縁派と「志」縁派の「若い方」の考察から．ソシオロジ，49(1)，91-107 (2004)．
- 16) 堀口康太，大川一郎：高齢者の社会的活動への動機づけと他者との関係性の関連．教育心理学研究，66(3)：185-198 (2018)
- 17) 柳沢志津子，杉澤秀博：企業退職者男性高齢者における地域社会活動への参加継続プロセスに関する要因：-料理サークルを事例とする組織戦略と参加メンバーの相互の視点から．老年学雑誌，5，73-90 (2015)
- 18) 藤原妙子，杉澤秀博：定年退職を経験した既婚女性の社会参加の意味付け．老年学雑誌，5，55-71:(2015)
- 19) 岡本秀明：高齢者における社会活動の促進・阻害要因の検討：独居・要介護・在日韓国人高齢者へのインタビュー調査から．社会福祉学，48(4)，146-160. (2008)
- 20) 宇良千秋：高齢者の社会参加の促進・阻害要因（特集 高齢者の社会参加）．老年精神医学雑誌，14(7)，884-888. (2003)．
- 21) 岡本秀明，岡田進一，白澤政和：農村部における高齢者の社会活動と生活満足度との関連：社会活動に対する参加意向に着目して．社会福祉学，46(1)，63-73.(2005)．
- 22) 岡本秀明，白澤政和農村部高齢者の社会活動における活動参加意向の充足状況に関連する要因．日本在宅ケア学会誌，10(1)，29-38. (2006)．
- 23) 中野邦彦：中山間地域における高齢者の社会参加を規定する要因に関する研究．日本農村医学会雑誌，69(4)：358 (2020)
- 24) 瀧澤透，田中尚恵，渡邊直樹，三戸波子，大山博史，山中朋子，山下志穂，菅原育子．青森県三戸町における中年期の抑うつ感と関連要因—自殺一次予防としての心の健康に関する調査—．民族衛生，71(6)，244-254. (2005)．
- 25) デュマズディエ J. 中島巖（訳）：余暇文明へ向かって．東京創元社（1972）
- 26) 中溝一仁：高齢社会における余暇問題—近代的な「時間」概念から—．社会科学研究科年報(12)：pp57～67 (2005)
- 27) 農林水産省：「農業地域類型について」「農業地域類型一覧表（平成 29 年改定）」（https://www.maff.go.jp/j/tokei/chiiki_ruikei/setsumei.html、2021.6.6 アクセス）
- 28) 滝澤寛子，& 櫻井尚子：旧農村地域に住む向老期から前期高齢者の地域への愛着を測定する尺度の開発．社会医学研究= Bulletin of social medicine: 日本社会医学会機関誌，35(1)，55-62(2018)．
- 29) 砺波市：「やっぱり砺波で暮らそう。砺波市移住定住応援サイト」（<https://www.tonami-life.net/tonamisi/overview> 2021.6.17 アクセス）
- 30) 砺波市：「砺波市ホームページ 砺波市高齢者保健福祉計画（第 8 期計画）策定」（<https://www.city.tonami.toyama.jp/info/1430355277.html> 2021.6.6 アクセス）
- 31) 藤崎宏子：シニア期の生きがい 現代家族問題シリーズ 4 高齢者・家族・社会的ネットワーク 培風館（1998）
- 32) 杉原陽子：社会参加と健康長寿 新老年学 第 3 版 東京大学出版（2010）